



安心の地域医療を支える

JCHO NEWS

Japan Community Healthcare Organization NEWS



JCHO:東京都立病院機構と包括連携協定！
仙台病院:宮城大学との包括連携協定!!

02 東京都からの感謝状を受領
千葉病院新築工事現場視察

03 メッセージ
Shu'sRoom

04 包括連携協定
JCHO×東京都立病院機構

05 包括連携協定
仙台病院×宮城大学

06 佐賀中部病院の広報活動紹介

07 パブリック
リレーションズ

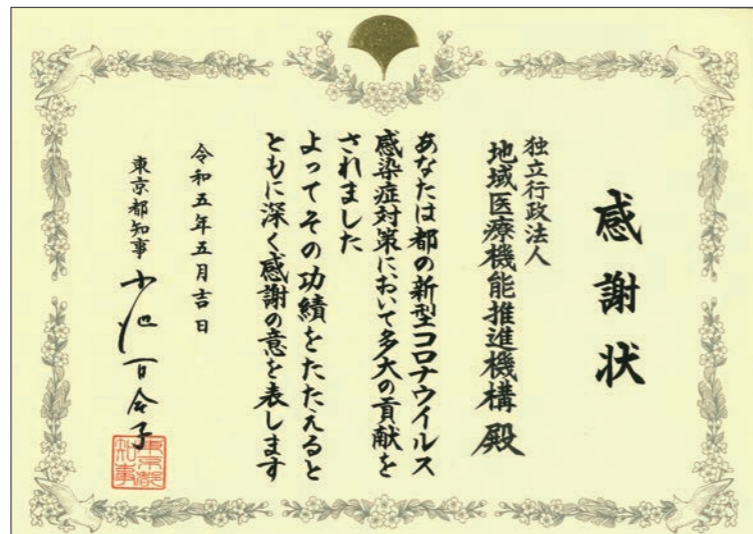
08 病院機能評価
玉造病院

09 JCHOで育成する
総合診療医

10 トピックス
経営強化
集中期間について

11 トピックス
第8回
JCHO地域医療
総合医学会の案内

12 JCHO GROUP
JCHO
全国ネットワーク



新型コロナウイルス感染症対策における東京都からの感謝状受領!



JCHOは、今後も引き続き東京都や近隣医療機関と密な連携をはかり、感染拡大防止に努めていきます。
あらためて新型コロナウイルスの感染へのリスクを抱えながらも、最前線で奮闘する職員の皆様に、心から敬意と感謝を申し上げます。



千葉病院 ちーばぴよん

名前：ちーばぴよん
お仕事又は活動内容：看護師さんの就職活動等の広報活動
出身：千葉県千葉市のピーナッツ畑

千葉市仁戸名町にウサギとして生まれ早数年、千葉病院を愛してやまない「ちーばぴよん」です。皆さんの心と身体がピョンピョン弾むような元気印のキャラクターを目指しています。見かけたら声をかけてね!

千葉病院 新築工事現場視察(左から高橋事務長、山本理事長、岡住病院長)

メッセージ

良質な医療を継続するために

病院経営・総合診療医担当理事 楠 進

地域に根ざした医療を行うことが第一の使命であるJCHOの病院にとっては、地域の患者さんたちが望む「良質な医療」を提供することが何よりも大切なことです。医療従事者である医師・看護師やメディカルスタッフの方々は、そのための専門教育を受け、理想を実現すべく日夜努力されていることと思います。

一方で、良質な医療の提供が持続可能であるためには、経営が安定していることが不可欠です。経営については、病院長をはじめとする病院の幹部が主として担当するものとおられる方が多いと思います。それはその通りなのですが、実は全ての職員の協力がなければ実現することが難しいのも事実です。

日本の医療は保険制度に基づいているので、そのルールを熟知している必要があります。例えば、JCHOの多くの病院はDPC対象病院となっています。DPCというのはDiagnosis Procedure Combinationの略で、診断群分類によって1日あたり病院に支払われる額が決まってくる制度です。このDPCのルールを考慮に入れて診療しているかどうかで、同じことをしていても収入が大きく変わってくるのです。

医療は患者さんの健康や命を預かる大変な仕事です。医療従事者の方々は、そのために細心の注意を払わなければいけません。ただ、それに加えて経営的な視点も入れていただくことがよい医療を持続可能とするためには大切なのです。最初にも書いたように、医療従事者は医療に関する専門教育はしっかりとうけていますが、経営的なことについてはそれほど知らない方が多いと思います。ですから、病院内の風通しをよくして、経営に詳しい事務の方が医療従事者に情報提供しやすい雰囲気を作ることも重要です。

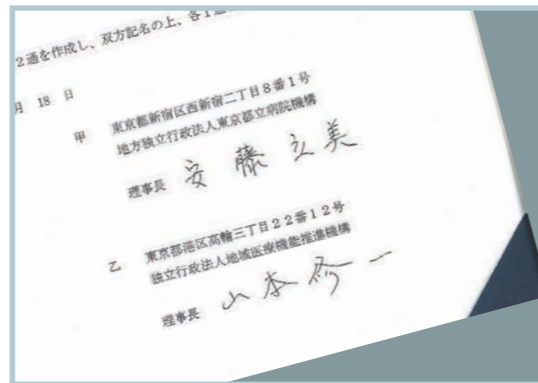
職員が一致団結して、各人が少しでも経営的視点も持って一歩を踏み出せば、JCHO全体としては大きな一歩になると思います。良質な医療の提供を持続可能とするため、引き続きよろしくお願いいたします。



現場のみなさんとの対話会を始めました。これから1年以上かけて全病院の若手職員と対話していきます。ぜひみなさんのご意見をお聞かせください!

東京都立病院機構との 包括連携協定を締結

JCHOと地方独立行政法人東京都立病院機構において、双方が有する臨床フィールドや教育研究力等を活用することにより、医療の充実向上等に資することを目的として、2023年7月18日に包括連携協定を締結しました。



具体的な連携事項

① 人材育成に関する事項

研修活動などを通じて職員の交流を図り、異なる病院間での知識や経験を共有することで、医療の質の向上を図ること。

② 病院運営に関する情報共有

人材の確保・活用、経営管理、調達、病院グループとしてのガバナンスなど、お互いの持つ課題を共有し、その解決のために連携・協力関係の強化を図ること。

③ その他、協議に基づく連携。

本協定は、今年度から始まった国立大学病院長会議との医療材料の共同調達事業を契機に、締結の流れとなりました。

当面、医師の働き方改革を背景に、特定行為研修の相互協力を進めていくなど、看護研修の相互受け入れを始めていき、将来的には、各種メディカルスタッフである専門職も含めることを検討していきます。

また、病院運営の情報共有として、複数の公的な役割を担う病院を有するグループ同士、病院運営のノウハウの共有やスケールメリットを発揮した取組の推進など、連携を深めることで、課題を共有していき、その課題の解決に向けての連携強化を図ることで運営の最適化を目指していきます。



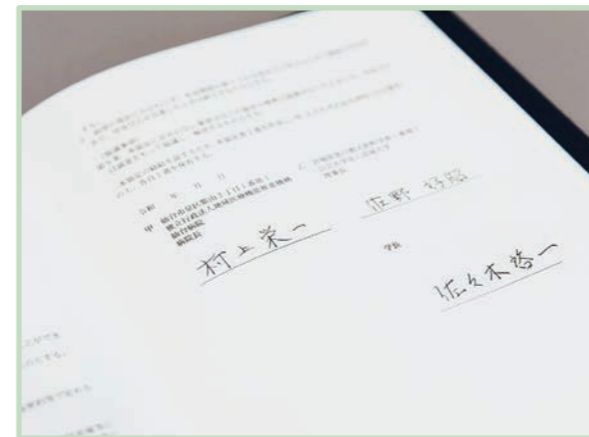
東京都立病院機構
安藤理事長

山本理事長

JCHO仙台病院と公立大学法人宮城大学 包括連携協定



2023年6月、当院と公立大学法人宮城大学は看護人材の育成を主軸とする「包括連携協力に関する協定書」を締結しました。この協定は当院の専門的な看護と宮城大学の教育・研究のノウハウを融合し、これからの保健・医療環境のニーズに応じた人材の輩出と、地域の健康増進に貢献していくことを目的としています。



協定に至った背景には、これまでの学生の臨地実習指導や病院看護職員の研修分野での協力関係を踏まえ、病院と大学の親和性を高め、看護教育ならびに看護実践の質の向上を図るという趣旨があります。加えて当院と宮城大学が隣接する地域は住民の高齢化が顕著であり、フレイル対策など保健環境の整備は共通の課題です。双方が協調することで教育環境の向上と地域の安心感の醸成に寄与していきます。

また、本協定で松邑看護部長は臨床教授を拝命し、看護学群全体の実習カリキュラムの統括や開発に協力・助言を行い、地域に優れた人材育成を創出する役割を担います。さらに、宮城大学 佐々木学長には当院の地域連携協議会の委員に就任いただき、地域社会にかかる見識を賜ります。厚生労働省が提唱する「保健医療2035」を見据える本協定の効果は、地域社会全体に波及されるものとなっています。

村上病院長は本協定の締結にあたり「新たな医療のレベル、教育を含め、人材がステップアップできる体制が整いました。地域の方々に大きな貢献になると確信しています」と述べ、今後の発展と健勝を祈念しました。



看護学群長
高橋 和子

宮城大学
学長
佐々木 啓一

理事長
佐野 好昭

病院長
村上 栄一

JCHO 仙台病院
看護部長
松邑 恵美子

事務部長
小畑 孝志

JCHO佐賀中部病院 の広報活動



～「睡眠時無呼吸センター」開設の一例～

近年増加傾向にある「睡眠時無呼吸症候群」は、放置して重症化すると心筋梗塞や脳梗塞、眠気による事故などを引き起こし、死亡率が高くなる怖い病気です。

昼間の説明できない眠気やひどいびき、睡眠中の呼吸停止があるときは早めの受診をお勧めします！

プレスリリース(睡眠時無呼吸センター 開設)

Press Release

報道各位



独立行政法人 地域医療機能推進機構
佐賀中部病院
Saga Central Hospital

2023年5月19日

睡眠時無呼吸センター開設のお知らせ

独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)佐賀中部病院は、令和5年6月1日に睡眠時無呼吸センターを開設し、初代センター長に門司恵(もんじ・めぐみ)が就任しましたのでお知らせいたします。

門司センター長コメント

当院では佐賀県内の病院に先駆けて2000年に睡眠時無呼吸症候群診療を開始しました。

現在、精密検査である終夜睡眠ポリグラフ検査(Polysomnography: PSG)を行う佐賀県内の主要施設として、23年間で2300名を超える新規患者様の診療を行ってまいりました。

この度、呼吸器内科・循環器内科医師5名と日本睡眠学会認定検査技師を含む検査技師と共に睡眠時無呼吸センターを開設することとなりました。これまで以上にきめ細かい診断・治療を行うことができる体制となりました。

<略歴>

平成10年 佐賀医科大学卒業。佐賀大学医学部附属病院、佐賀県医療センター好生館、唐津赤十字病院、NHO佐賀病院等を経て、平成31年より当院呼吸器内科医長。

■睡眠時無呼吸症候群とは

睡眠時無呼吸症候群とは睡眠中に呼吸が停止してしまう病気です。呼吸が停止すると血液中の酸素濃度が低下するため、患者さんは自分では気づかなくても一瞬目が覚めて再び呼吸しはじめます。

しかし眠りだすとまた呼吸が停止してしまいます。

これを一晩中繰り返すため、深い睡眠が取れなくなり、日中に強い眠気が出現します。10秒以上の呼吸停止が1時間あたり20回以上出現するような中等症・重症の睡眠時無呼吸症候群を放置すると、心筋梗塞・脳梗塞・生活習慣病・眠気による事故などを引き起こし、死亡率が非常に高くなります。

日中の説明できない眠気、充足感のない睡眠やひどいイビキ、睡眠中の呼吸停止がある場合には早めに医療機関で検査・治療を受けることが大切です。

<お問い合わせ先>

JCHO佐賀中部病院 総務企画課 担当:一尾 電話 0952-28-5311

メール ichio-shinobu@saga.jcho.go.jp



public relations

【パブリックリレーションズ(PR)の目的】

PRは、商品やサービスだけでなく、組織や人物などの認知度や好感度をメディアの力を活用して高め、購買意欲や親近感を向上させるのが主な役割です。広告宣伝と違い多額な費用負担になりません。

「商品をPRする⇒顧客がそれを認知する⇒購買意欲が高まる⇒実際に購入に至る」という流れを作ることが、PR活動における目的となります。



JCHO佐賀中部病院 病院長 園畑 素樹

私が今年4月に病院長に就任し、まず取り組んだのが、当院のプレゼンス(存在感)を高める事でした。今回ご紹介するのは、病院長研修のテーマの一つでもあった「マスコミへの広報活動」です。

まず各診療科・部門の仕事内容を調査し、呼吸器内科が行っている睡眠時無呼吸に目を付け、呼吸器内科、循環器内科、認定検査技師、栄養管理士を含めたセンターを開設することを決めました(毎週カンファレンスを開催)。門外漢である整形外科医の病院長が急に言い出したことなので、若干の逆風はありました。

次に、プレスリリース(報道関係者向けの資料)を作成し、佐賀県庁の記者クラブへ自ら出向き配布しました。記者の方と名刺交換を行い、『睡眠時無呼吸センター開設』についてその内容と意義について丁寧に説明することができました。

その結果、多くのマスコミに取り上げられ、センター長、副センター長にも多数の取材対応をこなしてもらい、本年12月には市民公開講座を開催することも決定しました。

活動に関する経費ですが、箱モノの増設や専用の部屋の確保は無く、新しい組織を設立しただけです。病院で新たに購入したものは屋内外の案内看板だけで、報道関係の掲出費用は発生しておりません。

以上、当院の広報活動の一例をご紹介しました。広報活動の効果の大きさを肌で感じ、繰り返すことの重要性を実感しました。当院の取り組みが皆様のご参考になれば幸いです。

マスコミ報道一覧 (睡眠時無呼吸センター 開設)

媒体	メディア	内容	報道時間など
ラジオ	NBCラジオ	SASセンター開設告知	2分
		SASセンター長インタビュー	15分
テレビ	NHK佐賀テレビ	SASと当院の紹介 (インタビューあり)	8分
	ぶんぶんテレビ	SASと当院の紹介 (インタビューあり)	6分(35回以上放映) 計210分以上
新聞	佐賀新聞	SASセンター開設の紹介	紙面&web版
	毎日新聞	SASセンター開設の紹介	紙面&web版
	西日本新聞	SASセンター開設の紹介	紙面&web版
web	m3	SASセンター開設の紹介	web版
		SASセンター開設の紹介	web

SAS: 睡眠時無呼吸
ぶんぶんテレビ: 佐賀県内のケーブルテレビ局の略称

睡眠時無呼吸センター の案内板(新設)



病院機能評価を受審して、病院の質改善につなげよう!

JCHO玉造病院



JCHO玉造病院 病院長 池田 登

当院では2004年9月に病院機能評価を初回受審して以後、今回で4回目の受審となります。最近、病院機能評価に関して受審までの過程に手間がかかりすぎて日常業務に支障をきたすとか、評価内容が重箱の隅をつつくようなものが多いとか、診療報酬上の実質的な利益が少ないなどの理由から一部の病院で病院機能評価離れの傾向があり、受審に関しては賛否両論があります。

当院では今回の受審にあたって特に反対意見はなく、これまで通りの流れで受審に至りました。日頃当たり前のように行っている行動や仕組みをもう一度見直すことができ、その内容を第三者の目で評価してもらえる、また19年間維持してきた認定は見送るべきでないとの考えが今回の受審に繋がっています。

病院機能評価は事前の準備過程を多職種で共有することができ、病院全体に一体感が生まれます。病院機能評価は認定されることが最終目標ですが、受審までの過程が重要であると言われる所以はここにあります。

今回の受審にあたり、ご多忙の中わざわざ松江までお越しいただき、ご指導を賜ったJCHO東京新宿メディカルセンターの関根信夫病院長には紙面を借りて深謝いたします。ありがとうございました。また今回準備に携わった機能評価委員さらに受審当日まで一丸となって対応した病院職員の皆様に感謝致します。

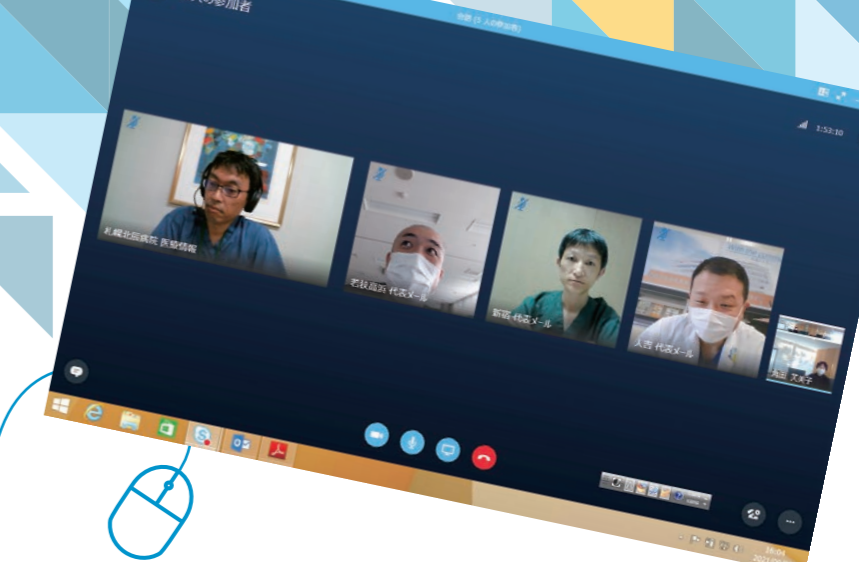
副院長 川合 準

病院機能評価受審対策委員長という立場での参加でしたが、実際に訪問審査に立ち会うのは私自身初めての経験でした。当初懸念していた重箱の隅をつつくような不毛なやり取りはなく、指摘事項も病院の質改善に直接フィードバックできるようなものばかりでした。病院スタッフ、事務方の協力に大いに支えられ、何とか高評価を得ることができました。書類作成や予行演習等、準備はそれなりに大変でしたが、結果的に有意義な受審となりました。

総務企画課長 下田 哲也

本来ならば2020年12月に受審(更新)予定でしたが、新型コロナの影響で約2年半延期となり、5月18日と19日に受審しました。訪問審査は「試験」ではなく「支援」であるということ強く感じました。

JCHOで
育成する
総合診療医



総合診療医育成ワーキンググループ JCHO人吉医療センター 総合診療科部長 田浦 尚宏

全国ネットのJCHOには、地域に密着して幅広く地域に貢献している病院や施設が多数あり、地域に愛着をもち、地域住民の生活を継続して支えていく様々なシステムがあると考えます。私たちは、総合診療医を目指す医師がJCHOの中で充実した研修ができる環境を作り、総合医が地域で活躍し、地域を医療で支えたいと思います。各々の地域医療の特徴をいかし、専攻医が希望する研修を実現できるプログラムを検討し、指導医と学習者が共に学習できる機会を作っています。オンラインでミーティングや振り返り会を行い、2022年10月に熊本で開催された第7回JCHO地域医療総合診療医学会では、関係者みんなで集合して総合診療医育成についてシンポジウムを行いました。

総合診療医を目指す医師には、初期研修修了後にストレートで研修する医師の他、他科からキャリアチェンジで研修する医師などさまざまなパターンがあり、総合診療科を持つ基幹病院には専攻医の在籍が増える傾向にあります。専攻医と指導医の学びのために、専攻医が在籍するプログラムからの勉強会「専攻医育成のための勉強会」を2023年5月24日に行い、第2回は8月30日に行いました。また、10月3日に「JCHO総合診療医指導医フォーラム」を開催し、最近の動向、各施設の取り組みなど共有・意見交換し、指導医間のネットワークを広める予定としています。JCHO本部の協力体制のもと、単施設で行うことが難しい広報を行い、全国のJCHO病院にマッチする人材を増やし、総合診療医育成を通して地域を支えたいと考えます。



▲研修医が専攻医とシミュレーター研修

▼保健福祉医療連絡協議会



「経営強化集中期間」について

JCHOにおいては、コロナ補助金等の影響により令和3年度は約480億円、4年度は約225億円という経常収支を計上しました。一方で、この間に患者の受療行動は大きく変化し、入院・外来ともに新規患者数は令和元年度と比べて大きく減少したほか、診療報酬改定や医師の働き方改革、物価高騰等の影響により、令和5年度は7月累計で既に35億円超の赤字と、今後は非常に厳しい経営が予想されています。

こうした状況を踏まえ、令和5・6年度を「経営強化集中期間」に設定し、カテゴリI（「特に経営支援が必要と思われる病院」）の14病院について、明確な必達目標と達成に向けた具体策をまとめた「集中取組計画」を策定いただくこととしました。

JCHO本部企画経営部長 中村 彩子

7月の経営強化本部では、各病院から提出された計画案をもとに、各病院の強みを改めて確認し、他院との連携や診療報酬改定の動向も踏まえた病棟運営等の経営プランについて、具体的な議論が交わされました。

今年度はJCHOになって10年目、第三期中期計画を策定する節目の年に当たります。既に地域での病院再編や地域医療連携推進法人の設立等、次期計画期間に向けて積極的に見直しを検討している病院もあります。この2年間を契機として、地域で築いてきた信頼や基盤の上に各病院が今後も地域に必要な医療を提供し続けられるよう、本部・地区事務所も一体となって支援していききたいと思います。

【集中取組計画】(イメージ)

●●病院(令和5年●月時点)

「将来的に経営が困難になるおそれがある病院の共通課題」	自院の現状自己評価(認識)	(理由)
1. 患者数の減少 人口減少が著しい、又は同一医療圏に競合病院が複数ある等により、患者獲得が困難な地域に所在すること	×	人口減少は●年まで続く傾向にある
2. 医師等の確保 病院機能を果たすための医師等の人員確保が困難であること	△	○科においては欠員補充の目的は立っているが、□科においては苦慮している
3. 収支見込 紹介・逆紹介率が低く、入院診療単価・手術件数が増える見通しがないなど、必要な運営費を確保することが難しい状況であること	△	回復傾向にあるが、十分ではない
4. 建替の可能性 建物が老朽化しており、建替シミュレーションにおいて今後建替に必要となる収益等の確保が非現実的な状況であること	×	築●年で老朽化による各所に不具合が生じている
5. 地元自治体との関係 地元自治体より、寄付講座の設置や補助金の給付等、病院存続に向けた十分な支援がないこと	△	自治体は良好関係であり、地域での存続を期待しているが、寄付金講座の設置や補助金の給付は十分ではない

「経営強化集中期間」(令和5年4月～令和7年3月末) 2年の間に達成する事項	(具体的な方策等)	(期限)
検討ポイント: 1、2、3、4		
(1) 収支改善 ※○○年後の建替を想定 ・病床利用率●%以上 ・入院診療単価●円以上 ・令和5年度・令和6年度で●●円以上の収支	①強みである○科の病床を○床増やし、収益性の低い□科は○年までの間に段階的に縮小(入院廃止)する ②施設基準●の上位基準●を取得 ③手術枠を●コマ増やす ④DPC入院期間を意識したパスの見直し	①令和●年●月 ②令和●年●月 ③令和●年●月 ④令和●年●月
検討ポイント: 1、3、5		
(2) 地域連携強化 ・紹介割合●%以上 ・逆紹介割合●%以上	①連携推進法人への参画 ②営業エリアを広げ、連携施設を●施設増やす ③医師別の逆紹介割合を見える化して逆紹介割合の推進を促す	①令和●年●月 ②令和●年●月 ③令和●年●月
検討ポイント: 3、5		
(3) 地域での貢献 ・救急応需率●%以上 ・救急からの入院率●%以上	①日中は、救急を担当制とする ②医師別の応需率・入院率を見える化して応需率の推進を促す ③①②等で救急対応を強化し、地域での評価を高め、十分な支援を行政へ要望する	①令和●年●月 ②令和●年●月 ③令和●年●月

※「将来的に経営が困難になるおそれがある病院の共通課題」を踏まえ、「経営強化集中期間」(令和5年4月～令和7年3月) 2年の間に達成する事項を記載

第8回 JCHO地域医療総合医学会 in Mie へのご招待

JCHO四日市羽津医療センター 病院長 住田 安弘

第8回JCHO地域医療総合医学会は来たる令和5年12月8日(金)、9日(土)の2日間、三重県津市の三重県総合文化センターで開催します。メインテーマである「ポストコロナの地域医療戦略」ではJCHO地域医療総合医学会初のディベートセッションを開催し、今後の患者増加策などについて考えます。特別講演は「とくダネ!」のメインキャスターを務められた小倉智昭さんをお呼びしました。皆様方から応募いただいた一般演題は478演題に上ります。三重県は観光と食に秀でた地域なので「学ぶ・見る・食べる」の楽しい思い出を作っただけいたら幸いです。皆様のお越しをお待ちしております。

第8回 JCHO地域医療総合医学会
The 8th Annual Meeting of Japan Community Health care Society in Mie

特別講師 小倉 智昭 (トレント)
会員 住田 安弘 (JCHO 四日市羽津医療センター 院長)

ポストコロナの地域医療戦略

2023年12月8日(金)・9日(土)
会場 三重県総合文化センター

TEL: 03-3445-5125 FAX: 03-3445-5110 E-mail: info@jchs.or.jp
https://www.jchs.or.jp/



第8回JCHO地域医療総合医学会 開催スケジュール(予定)

会場: 三重県総合文化センター

2023年9月27日現在

【1日目】 12月8日(金)	【2日目】 12月9日(土)
8:30~ 受付開始	7:45~ 受付開始
9:40~9:55 開会式	8:15~9:15 モーニングセミナー
10:00~11:00 会長講演	8:45~12:00 理事長講演 会長企画 継続テーマシンポジウム Meet the Professor シンポジウム 一般演題(口演発表・ポスター発表)
11:05~12:05 職場チームによる業務改善の取り組み発表・最優秀賞審査 一般演題(口演発表・ポスター発表)	12:10~13:10 ランチョンセミナー
12:20~13:20 ランチョンセミナー	13:20~15:30 Meet the Professor 継続テーマシンポジウム 一般演題(口演発表・ポスター発表)
13:35~14:20 Meet the Professor 一般演題(口演発表)	15:35~ 閉会式
14:45~15:45 特別講演	
15:50~16:20 職場チームによる業務改善の取り組み表彰式	
16:30~18:10 継続テーマシンポジウム シンポジウム 一般演題(口演発表)	
18:30~ 懇親会	

※ スケジュールは、変更する場合がありますのでご了承ください。

- ・最寄駅の「津駅(西口)」より会場の「三重県総合文化センター」エントランスまでシャトルバスの運行を予定しています。
- ・ランチョンセミナー、モーニングセミナーは、事前登録制(オンラインによる「個人登録」)です。セミナーの登録方法や、日程表等の最新情報は、HPをご確認ください。

[第8回JCHO地域医療総合医学会ホームページ] <https://www.jchs.or.jp/jcho2023/>



北海道東北地区

北海道	北海道病院	062-8618	北海道札幌市豊平区中の島1条8-3-18	Tel.011-831-5151
	札幌北辰病院	004-8618	北海道札幌市厚別区厚別中央2条6-2-1	Tel.011-893-3000
	登別病院	059-0598	北海道登別市登別東町3-10-22	Tel.0143-80-1115
宮城	仙台病院	981-3281	宮城県仙台市泉区紫山2-1-1	Tel.022-378-9111
	仙台南病院	981-1103	宮城県仙台市太白区中田町字前沖143	Tel.022-306-1711
秋田	秋田病院	016-0851	秋田県能代市緑町5-22	Tel.0185-52-3271
福島	二本松病院	964-8501	福島県二本松市成田町1-553	Tel.0243-23-1231

関東地区

栃木	うつのみや病院	321-0143	栃木県宇都宮市南高砂町11-17	Tel.028-653-1001
群馬	群馬中央病院	371-0025	群馬県前橋市紅雲町1-7-13	Tel.027-221-8165
埼玉	さいたま北部医療センター	331-8625	埼玉県さいたま市北区宮原町1-851	Tel.048-663-1671
	埼玉メディカルセンター	330-0074	埼玉県さいたま市浦和区北浦和4-9-3	Tel.048-832-4951
千葉	千葉病院	260-8710	千葉県千葉市中央区仁戸名町682	Tel.043-261-2211
	船橋中央病院	273-8556	千葉県船橋市海神6-13-10	Tel.047-433-2111
東京	東京高輪病院	108-8606	東京都港区高輪3-10-11	Tel.03-3443-9191
	東京新宿メディカルセンター	162-8543	東京都新宿区津久戸町5-1	Tel.03-3269-8111
	東京山手メディカルセンター	169-0073	東京都新宿区百人町3-22-1	Tel.03-3364-0251
	東京城東病院	136-0071	東京都江東区亀戸9-13-1	Tel.03-3685-1431
	東京蒲田医療センター	144-0035	東京都大田区南蒲田2-19-2	Tel.03-3738-8221
神奈川	横浜中央病院	231-8553	神奈川県横浜市中区山下町268	Tel.045-641-1921
	横浜保土ヶ谷中央病院	240-8585	神奈川県横浜市保土ヶ谷区釜台町43-1	Tel.045-331-1251
	相模野病院	252-0206	神奈川県相模原市中央区淵野辺1-2-30	Tel.042-752-2025
	湯河原病院	259-0396	神奈川県足柄下郡湯河原町中央2-21-6	Tel.0465-63-2211
山梨	山梨病院	400-0025	山梨県甲府市朝日3-11-16	Tel.055-252-8831

東海北陸地区

富山	高岡ふしき病院	933-0115	富山県高岡市伏木古府元町8-5	Tel.0766-44-1181
石川	金沢病院	920-8610	石川県金沢市沖町ハ15	Tel.076-252-2200
福井	福井勝山総合病院	911-8558	福井県勝山市長山町2-6-21	Tel.0779-88-0350
	若狭高浜病院	919-2293	福井県大飯郡高浜町崎崎87-14-2	Tel.0770-72-0880
岐阜	可児とうのう病院	509-0206	岐阜県可児市土田1221番地5	Tel.0574-25-3113
静岡	桜ヶ丘病院	424-8601	静岡県静岡市清水区桜が丘町13-23	Tel.054-353-5311
	三島総合病院	411-0801	静岡県三島市谷田字藤久保2276	Tel.055-975-3031
愛知	中京病院	457-8510	愛知県名古屋南区三条1-1-10	Tel.052-691-7151
三重	四日市羽津医療センター	510-0016	三重県四日市市羽津山町10-8	Tel.059-331-2000

近畿四国地区

滋賀	滋賀病院	520-0846	滋賀県大津市富士見台16-1	Tel.077-537-3101
京都	京都鞍馬口医療センター	603-8151	京都府京都市北区北山下総町27	Tel.075-441-6101
大阪	大阪病院	553-0003	大阪府大阪市福島区福島4-2-78	Tel.06-6441-5451
	大阪みなと中央病院	552-0003	大阪府大阪市港区磯路1-7-1	Tel.06-6572-5721
	星ヶ丘医療センター	573-8511	大阪府枚方市星丘4-8-1	Tel.072-840-2641
兵庫	神戸中央病院	651-1145	兵庫県神戸市北区熱山町2-1-1	Tel.078-594-2211
奈良	大和郡山病院	639-1013	奈良県大和郡山市朝日町1-62	Tel.0743-53-1111
島根	玉造病院	699-0293	島根県松江市玉湯町湯町1-2	Tel.0852-62-1560
香川	りつりん病院	760-0073	香川県高松市栗林町3-5-9	Tel.087-862-3171
愛媛	宇和島病院	798-0053	愛媛県宇和島市賀古町2-1-37	Tel.0895-22-5616
高知	高知西病院	780-8040	高知県高知市神田317-12	Tel.088-843-1501

九州地区

山口	下関医療センター	750-0061	山口県下関市上新地町3-3-8	Tel.083-231-5811
	徳山中央病院	745-8522	山口県周南市孝田町1-1	Tel.0834-28-4411
福岡	九州病院	806-8501	福岡県北九州市八幡西区岸の浦1-8-1	Tel.093-641-5111
	久留米総合病院	830-0013	福岡県久留米市柳原町21	Tel.0942-33-1211
	福岡ゆたか中央病院	822-0001	福岡県直方市大字感田523-5	Tel.0949-26-2311
佐賀	佐賀中部病院	849-8522	佐賀県佐賀市兵庫南3-8-1	Tel.0952-28-5311
長崎	松浦中央病院	859-4594	長崎県松浦市志佐町浦免856-1	Tel.0956-72-3300
	諫早総合病院	854-8501	長崎県諫早市永昌東町24-1	Tel.0957-22-1380
熊本	熊本総合病院	866-8660	熊本県八代市通町10-10	Tel.0965-32-7111
	人吉医療センター	868-8555	熊本県人吉市老神町35	Tel.0966-22-2191
	天草中央総合病院	863-0033	熊本県天草市東町101	Tel.0969-22-0011
大分	南海医療センター	876-0857	大分県佐伯市常盤西町7-8	Tel.0972-22-0547
	湯布院病院	879-5193	大分県由布市湯布院町川南252	Tel.0977-84-3171
宮崎	宮崎江南病院	880-8585	宮城県宮崎市大坪西1-2-1	Tel.0985-51-7575

地区事務所

本部	〒108-8583	東京都港区高輪3-22-12 3F
北海道東北地区事務所	〒981-3281	宮城県仙台市泉区紫山2-1-1 仙台病院 3F
関東地区事務所	〒108-0074	東京都港区高輪3-22-12 1F
東海北陸地区事務所	〒457-0866	愛知県名古屋南区三条1-1-10 中京病院健康管理センター内
近畿四国地区事務所	〒553-0003	大阪府大阪市福島区福島4-2-78 大阪病院別館 3F
九州地区事務所	〒866-0862	熊本県八代市松江城町2-26 熊本総合病院健康管理センター棟 4F



仙台病院 ずんずん

名前：ずんずん
お仕事又は活動内容：広報活動全般
出身：宮城県仙台市泉区紫山
身長：39cm
体重：ずんだの実39個分

仙台の名物「ずんだ」を頭に乘せている妖精。
JCHOの「H」と「O」に見えるほっぺたの赤みが特徴。
ポシェットの中にはいつも救急セットが入っている。
みんなの心に花を咲かせるような優しい心を持っている。

